



創立138年 鳳祭 11/2~5



校友400人多彩な企画楽しむ

ホームカミングデーは、宮城県や広島県など全国から校友約400人が参加し、旧交を温めた。9号館の特設ステージでは、日本酒の八海山で知られる八海醸造グループで活躍する中俣善也さん(平4商)が学生時代の体験と卒業後のキャリア形成について語った。観光事業研究会OBの鈴木啓三朗さん(平9経済)は同研究会仲間と地ビールビアパブコーナーで談笑。「中俣さんの話を聞き、お酒をより味わって飲むことができる」と話した。徳島県人会卒業生らによる「鳳連」が迫力の阿波



解説をしながら花を生ける粕谷尚弘さん(平15経済)

ホームカミングデー

踊りを披露したほか写真展示や、囲碁アマチュア名人の大関裕一(商3)を相手に囲碁を打つ校友もいた。10号館ではスポーツのトークショーが行われ、世界大会活躍するレスリングの中村倫也さん(平29商)と、バルセロナ五輪入賞の水泳の平中秀子さん(平8法)が2020年東京五輪パラリンピックに向けて語り合った。



阿波踊りを披露した徳島県人会の卒業生



専大の思い出を語る中俣さん



大関さん(右)と囲碁を打つ校友



スポーツトークショーに登壇した平中さん(左)と中村さん(右から2人目)。右端は司会の佐竹教授

鳳祭にぎわう11月4日、地方の魅力や可能性を発信する就職課主催のイベントが10号館で開催された。トークライブ「おにぎりたべて日本を救え!」は、たべて日本を救え!」は、身近なおにぎりをテーマに地方で働くことの意義を考える企画。本学OBの俳優、永島敏行さん(昭54文)、一般社団法人「おにぎり協会」代表理事の中村佑介さん、代官山でおにぎりを営む鈴木真之さん(RICE BALL代表取締役)が、都会と地方、生産者と消費者をつなぐ活動について語り合った。永島さんは、専大卒業式野球部時代の仲間が秋田県十文字町(現横手市)役場に就職したのが縁で「あきた十文字映画祭」の立ち上げに参画。ここで農家の人たちと知り合い、米作りを手伝うようになった。東京駅地下通路で毎週金曜日に開かれる野菜市「マルシェ」の運営も担っている。

おにぎりたべて日本を救え!



左から永島さん、鈴木さん、中村さん

秋田県の人が減るなかで若者の1ターンを呼ぶ

は増えていると語り、「ネット販売や直売所を農家が新しい形やついでにけるようになってきた。人間的な心の豊かさを生むものがあってもいい」と地方で働く魅力を語り、中俣さん「活動の限界集落の住民と交流している経営者、森本祥一ゼミ生が、特産米のPRに語っている」として認知度アップのための工夫について質問。3氏は「その米を食ってほしい」といふ喜びや楽しさを得られるか、それを訴えたいとアドバイスした。参加者約100人には鈴木さんのおにぎり作りが配布された。また10号館1階では、本学と就職支援協定を結ぶ17府県が「ふるさと就職マルシェ」をテーマに開設し、地元企業や就職支援策、定住促進策を紹介するパンフレットや特産品を配布し、1ターンを呼ぶことができた。

永島敏行さんら招きトークライブ